

# MYP unit planner 単元計画書

Teacher(s) 担当教師	Maki Ohno	Subject group and discipline 教科と領域	Design		
Unit title 単元名	食生活をデザインする	MYP year 学年	MYP2 (中1)	Unit duration (hrs) 授業時間数	25

探究：単元の目的を確立する Inquiry: Establishing the purpose of the unit

重要概念 (Key concept)	関連概念 (Related concept(s))	グローバルな文脈 (Global context)
発展	持続可能性, 協働, 選択	グローバル化と持続可能性 環境に対する人間の影響
探究テーマ (Statement of inquiry)		
協働的選択によって持続可能な社会が発展し、環境へ影響を与える。		
探究の問い (Inquiry questions)		
事実的 (Factual) - 栄養素は自身の健康にどのような影響を与える要因は何か      持続可能な社会を発展させるために必要な協力とは何か 概念的 (Conceptual) - 私たちはどのように食品を選択し活用しているのか 議論的 (Debatable) - 私たちの食生活に関する消費行動は、社会や環境にどのような影響を与えるのか		
目標 (Objectives)	総括的評価 (Summative assessment)	

<p><b>基準 A：探究と解析</b></p> <p>I 課題解決の必要性を説明し、正当化すること</p> <p>II 課題解決のために必要とされるリサーチの主要な点を述べ、優先順位をつけること</p> <p>III 課題解決のヒントとなる、一つの既存製品の主要な特長を詳しく述べること</p> <p><b>基準 B：アイデアの発展</b></p> <p>II 他者が正しく解釈できる、実現可能なデザイン案を作成すること</p> <p>III 選択したデザインを提示すること</p> <p>IV 選択したソリューションを制作するための主要な点を簡単に記したスケッチや図案を作成すること</p> <p><b>基準 C：ソリューションの製作</b></p> <p>II ソリューションの製作にあたり、優れた技術的スキルを示すこと</p> <p>III 意図した通りに機能し、適切に提示されたソリューションを計画に従って作成すること</p> <p>IV ソリューションの製作にあたり、選択したデザインや計画に変更を加えた部分を列挙すること</p> <p><b>基準 D：評価する</b></p> <p>I ソリューションの効果を測定するためのデータを生成する、簡単で適切なテスト方法をデザインすること</p> <p>II 効果の測定結果を設計仕様書と付き合わせ</p>	<p>評価規準を含む総括的評価課題の概要：</p> <p>Outline of summative assessment task(s) including assessment criteria:</p> <p><b>GRASPS シート</b></p> <p><b>G；目標</b></p> <p>あなたの目標は、理想的な食生活とは何かを考え行動することである。食生活を取り巻く様々な社会課題や、自身の食生活に関わる行動をふり返り、持続可能な社会に向けて自分たちにできることは何かを考え、課題の解決策を提案し評価します。</p> <p><b>R；役割</b></p> <p>あなたはより良い社会を構築する消費者である。</p> <p><b>A；聞き手</b></p> <p>聞き手は、あなたの行動を判断するその他の消費者である。</p> <p><b>S；課題の状況</b></p> <p>あなたが置かれている状況は、自身の食生活にかかわる消費行動について、持続可能な社会の構築という視点を踏まえた消費行動を提案し、聴衆に納得させるためのプレゼンテーションを行うことである。</p> <p><b>P；目的</b></p> <p>あなたの意見を班で共有し、より良いものをスライドにまとめて発表しなさい。</p> <p><b>S；評価</b></p> <p>あなたの作品は以下によって審査されます。</p>	<p>総括的評価課題と探究テーマとの関係：</p> <p>Relationship between summative assessment task(s) and statement of inquiry:</p> <p>バランスの良い食事を整えるためには、食品の選択や活用の仕方、その食品に合った適切な保存方法や、調理の工夫が必要である。</p> <p>自分が健やかに成長するために食生活は重要な役割をもつ。また、地球上の限られた資源を使い生きている私たちは、自己中心的な食生活のみをデザインするのではなく、社会全体の課題や価値を考えて生きていく必要がある。食品ロスなどの食生活の裏側を知ることによって自分の食生活を振り返り実践を行うことで、持続可能な社会の構築を意識した食生活の実践へとつなげていく。</p> <p>よりよい食生活とは、個人の食の内容を整え充実させることだけでなく、そこに付随する消費行動を通して人々が協力することで持続可能な社会が構築され、社会全体の課題の解決につながることに気づかせたい。</p>
--	--	---

## MYP unit planner 単元計画書

<p>て、ソリューションの効果を簡単に述べること</p> <p>Ⅲソリューションをどのように改善できるかを簡単に述べること</p> <p>Ⅳソリューションが顧客やターゲット層に及ぼす影響を簡単に述べること</p>	<p>基準 AB</p> <p>A i ソリューションの提供の必要性を説明し、正当化すること</p> <p>B iii 選択したデザインを提示し、そのデザインを選択した理由を簡単に述べること</p> <p>基準 CDについては、他の課題で評価します。</p>	
--	---	--

## 学習の方法 (Approaches to learning (ATL))

総括的課題に向けて情報ファイルやノートを整理された、論理的な状態に保つことで計画的に課題を進めることができる (自己管理; 整理整頓する力)

資源や環境に配慮した食生活についての総括的課題を協働で行うことを通してコミュニケーションスキルや批判的思考スキルを育てる (コミュニケーション; コミュニケーションスキル 社会性; 協働スキル 思考; 批判的思考スキル)

総括的課題やその他の課題の中で書籍やインターネットを使用することで解決策を特定し、情報やデジタルツールを評価し選択することで情報リテラシースキルを育てる (リサーチ、情報リテラシースキル)

## 行動: 探究を通じた指導と学習 Action: Teaching and learning through inquiry

内容 (Content)	学習過程 (Learning process)
<p><b>第一次 (6時間)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バランスの良い食事を考えよう</li> <li>・ 栄養素の種類や特徴</li> <li>・ 中学生に必要な栄養</li> </ul> <p><b>第二次 (6時間)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ よりよい食生活をめざして</li> <li>・ 食品ロスから自身の食生活について考える</li> <li>・ 食品ロスを出さない伝統的な製法で作られた製品 (ゴマ油) (企業連携)</li> <li>・ 私たちの食と環境 (企業連携: プラントベースフード)</li> </ul>	<p><b>学習経験と指導方策 Learning experiences and teaching strategies</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 バランスの良い食事とは何か, 食品の選択とその活用の仕方について理解する。(自己管理、リサーチ) 【Factual: 自身の健康に影響を与える要因は何か】 【Conceptual: 私たちはどのように食品を選択し活用しているのか】</li> <li>2 食生活と消費行動はどのように関わるのか考える。(振り返りスキル) 【Conceptual: 私たちはどのように食品を選択し活動しているのか】</li> <li>3 食生活を取り巻くさまざまな問題 (食料自給率や輸送エネルギー, 食品ロス, など) について理解し, 食生活に関わる行動の中で, 持続可能な社会に向けて自分たちにできることは何かを考え, 提案し評価する。 (社会性、自己管理、リサーチ) 【Factual 持続可能な社会を発展させるために必要な協力とは何か】 【Debatable 私たちの食生活に関する消費行動は, 社会や環境にどのような影響を与えるのか】</li> <li>4 生鮮食品と加工食品, それぞれの特徴をふまえて, 店頭で購入する際の選び方や, 保存の仕方, 調理方法などについて考え, 肉や魚, 野菜を使った日常食の献立を作成し, その調理の計画を立て, 実践することができる。 (自己管理、リサーチ) 【Debatable: 私たちの食生活に関する消費行動は, 社会や環境にどのような影響を与えるのか。】</li> </ol>

## MYP unit planner 単元計画書

<p><b>第三次 (4 時間)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs 給食献立の提案</li> </ul> <p><b>第四次 (11 時間)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生鮮食品と加工食品の特徴を知ろう</li> <li>食品の選択と購入, 食品の保存と食中毒防止</li> <li>肉や魚, 野菜を使った日常食の調理</li> <li>日本の伝統的な食文化である和食の調理</li> </ul>	<p><b>形成的評価 Formative assessment</b></p> <p>ワークシート</p> <p>1, 生徒は課題について, グループ活動での生徒同士のコミュニケーションを活かして解決策を提案し, 自己評価をする。しているか。</p> <p>2, 提出されたワークシートをもとに, 生徒の理解度を確認し, フィードバックを行う。</p> <p><b>指導の差異化 Differentiation</b></p> <p>ペア・グループ学習などにより, ワークシートの内容を共有することで, 理解が深まらなかった生徒の補助とする。また, 共有の際は教員も助言を行う。</p> <p>プロセスジャーナルを活用し, 疑問や困りごとに対して生徒それぞれに助言を行う。また, 概念の獲得が進み, 理解が深まっている生徒に対しては, 実際の行動に移すための助言を行う。</p>
<p><b>資料 Resources</b></p>	
<p>教科書; 「新しい技術・家庭 家庭分野」佐藤文子など, 東京書籍 (2021) 資料集; 「ニュービジュアル」小田良次, 実教出版 (2021)</p> <p>そのほか資料; ワークシート、ロイロノート、WEB ページ「グラムがわかる写真館」 (<a href="https://www.eiyoukeisan.com/calorie/gramphoto/index_gram.html">https://www.eiyoukeisan.com/calorie/gramphoto/index_gram.html</a>)</p>	

**振り返り: 探究の計画と過程, 影響を考察する Reflection: Considering the planning, process and impact of the inquiry**

<p>単元の指導前 Prior to teaching the unit</p>	<p>単元の指導中 During teaching</p>	<p>単元の指導後 After teaching the unit</p>
--	-------------------------------	---------------------------------------

## MYP unit planner 単元計画書

○生徒たちの食に関する興味・関心は高く、学校での学習活動以外でも「食」に関する知識や情報を多数獲得していると言える。しかし、栄養バランスを考えて「食事を整える」といったことはある程度意識されているが、食品そのものの選択という点では自分の生活圏内で得られる情報や、店頭で多数並んでいる商品の見た目や手に取りやすい価格といった観点から商品を選択しがちであるとも言える。

○家庭科での学びは社会の抱える課題に直結する部分が多く、このユニットで学ぶ「食品ロス」についての理解や行動力が、今後のSAやCPに大きくつながることを期待している。また、この学習を通して、食べ物や、それらを生産している人、調理をする人に思いやりをもち、信念をもってこの課題に取り組める人になることを望む。